

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価
①生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 科目選択の指導について教員間の共通理解を図る。 授業研究部と連携しICT活用指導力の向上を図る。(実態把握・活用の研究・促進) 	<ul style="list-style-type: none"> 最終科目選択が生徒・教員の十分な理解のもとでなされる。 プロジェクター設置教室の利用頻度が高まり、利用人数も増える。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒についての検討会が1・2年次生ともにできた。特別な選択の生徒について面談を通し詰めていく段階。 ICT活用の実態は進んでいるように見受けられる。後期には実態調査を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特別な選択の生徒への細心の注意や科目の内容についての理解が教員の側で万全とはいえなかった。徹底を図る必要がある。 活用実態調査を2月にまとめるが、かなりの活用率であると思われる。タブレット端末やHDMI接続などの要望もあり研究を要する。 	B
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学個別試験の問題研究を継続して行う。岡山、大阪に加えて九州大を研究する。 研修会/研究会などに参加することで新課程入試に関する資料(入試結果と今後の動向)を収集し、伝達講習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山大学入試問題解答解説集が夏休み前に発行できる。 検討会時、教員研修の時間をとり伝達講習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山大学入試問題解答解説集は完成し、予定どおり配布できた。大阪はまだの教科がある。九州は検討している教科もある。 7月検討会では、15年度入試の総括を伝達講習した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試研究が十分にできている教科、できていない教科がある。冊子は継続的に作成できているが、活用の仕方を工夫したい。 12月検討会では、低学年の進路指導について伝達講習した。 	B
	総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> 小中高の授業連携の幅を広げ、推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業連携(授業見学・出前授業)を10回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業は、7/13 成羽中(家)、高梁東中(英)と2回実施した。10/14は高梁中学校で国、数、英、社、理の5講座を同時開講する予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業は、成羽中 7/13(家庭) 12/15(社会・数学)、高梁東中 7/13(英語)、高梁中 10/14(国・数・英・社・理)、川上中 12/9(英語)、有漢中 12/15(英語)の計11講座を実施した。また、授業見学については、高梁中へ11/27と1/22の2回、計4名の教員が参加した。小学校との連携はなかった。 	B
	文化課	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の来館者状況を把握すると共に図書館の利用状況を年次団で共有して協力を仰ぎ、来館者数を増やす取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館に学年別のカウンターを設置し、来館者状況を把握する。ブックカフェを光風館で1回、図書館で2回開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月までの来館者数合計は、1年740人、2年1,519人、3年1,927人であった。学年ごとに利用状況を説明して図書館利用を促進するための協力を依頼した。 ブックカフェは、光風館では43人、図書館では37人の参加があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数(12月まで)は、5,167冊で昨年を上回った。来館者数(12月まで)は、1年1,713人、2年3,966人、3年4,487人であった。来館者数が多い学年ほど貸出冊数は多い。本を借りなくても図書館で本を読む生徒も多い。 図書館で行う予定の第3回ブックカフェは、読書キャンペーン中に本を借りた生徒をザ・サンコンズライブ(教員有志)に招待するという形に変更した。参加者は約90人で、この期間に本を借りた生徒も多かった。 	B
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 「話す」「聞く」などの生徒の表現活動を授業に取り入れて、伝えあう力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の表現活動を取り入れた授業を年間10回程度実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの話し合いを各授業で積極的に取り入れている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動を各授業で年間10回程度実施することが出来た。今後は活動内容の充実に努めたい。 	B
	地歴公民科	<ul style="list-style-type: none"> 思考力の育成のために各種資料、統計、地図などにしっかりと向き合う場面を設定する。読みとったことを表現させる手段を工夫する。 他校の公開授業等を見学し、自らの授業にフィードバックすることを心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料、統計、地図などから読みとったことを発表する機会を3回以上設ける。 平均1回以上校外の公開授業研究授業等を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料等からの発表の機会は、確保できているが、校外の研究授業参加については科目によって十分でないものもあり、後期に期待したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料等からの発表の機会は引き続き確保できたが、校外の研究授業参加については、科目によって実施できないものもあった。 	B
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> 校外研修等への積極的な参加と他教科の授業参観を可能な限り行うことで授業力の向上を図る。 3年の校内実力考査の作問、岡大、阪大の入試問題の分析を全員で行い、作問能力や分析能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が複数回の公開授業を参観する。2回以上入試問題の分析をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月期の授業参観は目標の1人2回以上を達成、授業力向上に努めた。 3年の実力考査作問は全員で作問検討を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 操山で行われた校外研修、芳泉、高梁中での授業参観に参加し、授業力の向上に努めた。 3年の校内実力考査の作問は全員で行えた。今後は、授業展開、教材研究に数学科として、年次を超えて、取り組んでいきたい。 	A
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験に際しては、事後報告レポートの作成に先立ち、結果整理・考察について班内で議論させる。また授業に於いても、生徒同士で課題について考えさせたり議論することでプレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに1回以上、生徒同士で議論させる授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、講義等で生徒同士が話し合いをする機会を持ち、議論させることができた。 物理・生物は毎時間、化学は実験の際に毎回(実験は単元に数回)行っている。継続して行いたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価の際と同様に、話し合い、議論をする頻度が物理・生物は毎時間、化学は単元ごとに行う実験の際に毎回行っている。班内で教科の内容について自分の意見を言うことのできる生徒の割合が増えた。 	A
	保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 個人・グループの課題や目標に応じた活動の計画をしっかりと立てさせ、振り返りを行う時間を設定することで、思考力や表現力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を踏まえて、トレーニングメニューを設定させる。 活動計画・振り返りの話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業前半のトレーニングは、概ねできている。 話し合いの場がやや少なく、リーダーの指示に頼っているだけのグループもあるのが課題。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を踏まえたトレーニングは年間通じて行うことができたので、次年度の体力テストの成果を期待したい。また、話し合いについては、個々が自由に意見交換している場面が増え、概ねできるようになった。 	A
	芸術科	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に創造的な発想ができるようにするために基礎を学び、古今の名作に触れ、それらを生かした発表ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎が身についているかのチェックを単元毎に行う。 2回以上の発表や作品に対する生徒同士の意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての単元でチェックができたわけではないが、概ね計画通りに行うことができた。 発表、意見交換についてはどの科目も1回以上行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り発表やテスト、プリント等で基礎力についてのチェックを行ったが、全ての単元で実施できてはいない。 どの科も2回以上の発表または意見交換を行った。 	B
	英語科	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の生徒による言語活動を充実させ、言語運用能力の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「コミュニケーション」の授業内で毎回生徒同士の言語活動の場面を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語/句レベルでは、毎時間生徒の発話場面があるが、自発的発話レベルまではまだ達していない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の発話機会は毎回設けることができたが、生徒の自発的発話を促す場面設定の必要性がある。 	B
	家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 各教員が校外の研修に参加後、科内で研修内容の報告会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告会を開けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外の研修後、回覧による報告やミーティング前の短い時間を使っての報告しかできていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校外の研修後、回覧による報告やミーティング前の短い時間を使っての報告しか出来なかった。 	B
	授業研究部会	<ul style="list-style-type: none"> 授業見学の継続と教科研修会(外部講師)の実施 教務課と連携しICT活用指導力の向上を図る。(実態把握・活用の研究・促進) 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な授業見学と研修会ができる。 授業でのプロジェクターの活用が促進される。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月授業見学は計画通り実施できた。教科研修会は国数英での実施案が決定。 正確な調査は年度末になるが、プロジェクター活用はかなり促進されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 国数英3教科での教科研修会を県から指導主事を派遣いただき実施でき、成果があった。 着実にプロジェクターの活用が進んでいる。投影機の3年HR配置もしていただいた。 	A

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組んだ内容と課題, 中間期までにできたこと, できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題, できたこと, できなかったこと等	評価
②生徒の学習習慣の確立(自主的な学習を目指して)	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。 各教科の学習習慣育成の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 『進路のてびき』を改訂して発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の時間が普通科は3時間、家政科は2時間を超える生徒の割合が7割を超える。 模試の反省会をその都度行う。 夏休み前に発行できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月調査で、1普74%、1家68%、2普83%、2家41%、6月調査、3普87%、3家64%。 学習実態調査のデータも含めて、各年次で反省会を行った。 予定どおり発行できた。今年度は「合格体験記」も合わせたものにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月調査で、1普90%、1家68%、2普89%、2家19%、6月調査、3普87%、3家64%。 12月末には、1,2年生のミニ検討会を行った。課内で反省会を行い、国数英に関しては教科会議を持ってもらった。 初版から5年たっているため、次年度は内容を見直したい。 	B
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 授業の小テストに向けての取り組みの他、授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課す。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの合格率7割以上。 課題の提出率8割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの合格率は概ね7割以上を達成できた。 課題の提出率は8割以上を達成出来たが期限内に出せない者がまだ多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの合格率は7割以上を達成できた。 課題の提出率は8割以上を達成出来た。今後は期限内に提出出来た者の割合が増えるように取り組んでいきたい。 	B
	地歴公民科	<ul style="list-style-type: none"> 復習の習慣を定着させるため、週末課題の出し方を工夫する。 小テストを定期的実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末課題を模試等に合わせ課す。 単元終了後に小テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題と小テストの実施は、よく実施されている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題と小テストの実施はよくおこなわれ、課題未提出者や小テスト不振者に対するフォローもできた。 	A
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指し、毎日課題、週末課題の内容を吟味し、出題し、提出期限の厳守を指導する。 上位層の生徒が自主的に行う課題を工夫し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科生徒の9割以上が、数学毎日課題(1・2年次生)や予習・復習などの課題(3年次生)を提出し、数学の家庭学習を毎日1時間以上確保する。進研模試(数学計)全国偏差値60以上が15人以上いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出状況はまだ基準に達しておらず、指導を徹底しなければならない。 学習時間(9月、3年のみ6月)1年1.3時間、2年1.1時間、3年1.2時間 進研模試(7月記述)60以上1年16人、2年16人、3年X11人、Y4人、Z5人 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題の難易度を変化させるなど学習習慣の定着への工夫を試みたが、中間層から下位層において模試、実力テストの結果にまだ現れてこない。 学習時間(11月)1年1.3時間、2年1.0時間 進研模試(1・2年11月記述、3年同マーク)60以上…1年12人、2年18人、3年数I・A8人、数II・B8人 	B
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な課題(当日課題、週末課題)の実施と期限厳守での提出を促す。課題の提出状況一覧表を少なくとも週1度は提示し、状況が良くない生徒に関しては随時面談を行い指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出率90%以上…A 提出率80%以上…B 提出率75%以下…C 	<ul style="list-style-type: none"> 各教員で提出を促し、週1回の提出一覧の提示や、未提出が多い生徒への随時面談など行っている。提出率は物理78%、化学約94%、生物97%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 提出率は、物理77%、化学91%、生物96%。課題提出の習慣が付き、基礎的な内容の定着につながった。 	B
	英語科	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で予習・復習すべきことを具体的に示し、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出率9割以上 学習実態調査における英語の家庭学習時間が一日平均1時間以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態英語は1~3年普通科平均が1.1時間弱であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家政科の課題提出率は9割を超えたが、普通科では8割から9割の間であった。 普通科では学習実態調査での平均学習時間が1.1時間。 	B
	家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 各種検定への取り組みについて、生徒が主体的に計画を立て取り組める工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に計画が立てられ実践できた」生徒アンケート70%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から使用しているスケジュール帳の利用により、生徒が計画的に行動できている様子が見られる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的に計画が立てられ実践できた」生徒アンケート【出来た】1年28%、2年28%、3年36%【だいたい出来た】1年62%、2年53%、3年50% 	A
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 手帳を利用し、毎日の振り返りを行い、自己管理能力の育成を図る。家庭学習時間の確保と課題提出期限の厳守を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間(普)平均3時間、(家)2時間以上の生徒が80%、提出率80% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の利用方法に改善の余地はあるが手帳利用の定着は徐々に図られている。家庭学習時間の目標は達成されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> (普)平均3時間以上の生徒は80%であったが、(家)2時間以上は未達成であった。手帳利用による自己管理能力の育成はまだ道半ばである。 	B
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活を意識させ、自分で学習予定を立てられるようにする。そのことにより、家庭学習時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の記録をとらせ、確認し指導する。家庭学習は平日(普)3(家)2時間以上6割の生徒ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習実態調査から普通科では6割以上の者が3時間以上を確保できているが、家政科では4割程度しか2時間以上確保できておらず、さらに指導が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普通科は平均学習時間3時間以上が80%であり4時間以上の者も40%であり、学習時間はある程度確保されている。一方、家政科は2時間を大きく下回り、進路意識がなかなか高まらず、学習習慣の確立に大きな課題が残った。 	B
3年次	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自らの課題を見つけ、教員の支援を受けたり、生徒同士が教えあひ学び合う雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務室に生徒が質問に来たり、教室などで生徒同士が教えあひ姿が多くみられる。 進路学習室を多くの生徒が利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の個別指導を受ける生徒は増加している。生徒同士が教えあひ雰囲気もできてきつつあるが、集中度に問題あり。 夏季休業中から進路学習室で個別学習に取り組む生徒が増えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が教えあひ姿や進路学習室などで学習に取り組む生徒は増加した。 自主的に学習して課題解決を図るために教員の指導を受けようとする生徒は一部に限られた。 	B	

B

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組んだ内容と課題, 中間期までにできたこと, できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題, できたこと, できなかったこと等	評価
③生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実	生徒課	・松籟祭について, 全校生徒が主体的に取り組めるように, 執行部が企画したものを, 生徒の松籟祭実行委員会を通じて体育, 文化委員会を中心とした各委員会で検討し, それぞれの意見を吸い上げ, 内容の充実を図る。	・生徒松籟祭実行委員会開催3回以上でA。 ・松籟祭後の生徒アンケートでの「良かった」の回答90%でA	・生徒松籟祭実行委員会を3回開催した。 ・生徒アンケートは, 現在集計中である。	B	・生徒松籟祭実行委員会を3回開催した。 ・生徒アンケートで「良かった」の回答が, 93.5%であった。	A
	総務企画課	・生徒が主体的に地域と交流できる環境を整える。	・新規栄町事業に取組み, 総合学習「高梁を知る」の内容充実に向け支援ができた。	・6月から将棋部が月1回将棋で地域交流している。11/1の地紅茶祭りに向けては, 生徒実行委員会が3回開かれた。昨年度までは実行委員会に生徒会執行部のみの参加であったが, 今年度からは家庭クラブ役員も参加し, 活動の幅を広げている。 ・総合学習「高梁を知る」については, 課として協力ができなかった。	B	・11/1に栄町商店街で開催された「地紅茶祭り」には, 生徒115名, 教員12名, 計127名が参加し, 地域の方々と触れあう貴重な機会となった。生徒実行委員会も4回開催され, 生徒主体の活動が実践できた。 ・総合学習「高梁を知る」については, 課としては十分な協力はできなかったが, 文化祭でのパネル展示に加え, 優秀な取り組みについては, プレゼン発表会を学年で設けるなど, 学年全体で共有できていた。	A
	厚生環境課	・美化に対する意識の高揚と自主的な活動をさらに進めるために, 日常の清掃活動の点検を定期的に集約し, 清掃監督者に通知する。また, 引き続き古紙回収, 学校周辺の清掃活動は年間計画を立て, 自主的に運営させる。 ・緊急地震速報を活用した避難訓練および抜き打ちの避難訓練を行い, 危機回避の能力を身につけさせる。 ・歯科検診の治癒率を上げる。	・2ヶ月に一度, 点検を集約し, 周知する。(年5回) ・毎月金曜日, 奇数週に清掃点検, 偶数週に古紙回収ができた。 ・避難訓練が2回以上できた。 ・う歯の治療率を50%以上にする。	・資源ゴミに対する意識は定着してきている。しかし, 気の緩みは出てくるものであるから, 今後とも注意を喚起したい。 ・清掃点検は二度ほど行ったが, 定着にまではいたっていない。 ・前期の避難訓練は1回できた。後期にも火災の避難訓練を予定している。 ・歯科治療率は, 現在35.3%と例年通り低い値となっている。後期は個別指導を実施し, 継続的に治療を呼びかける。	B	・避難訓練は2回できた。実際の場面でも教職員の迅速な行動で避難誘導もできたことは大きいと思う。 ・生徒の資源ゴミ意識の定着は見られるが, 一方で教員側の意識の低下があるように思われる。日常的にアナウンスしてゆく必要がある。 ・学校周辺の清掃が, 学年のボランティアと活動が重なることから計画しにくい状況にある。美化委員会独自の活動を考えていきたい。 ・後期は個別の指導を定期的の実施し, 現在の歯科治療率は59.2%となっている。今後も治療の必要性について保健指導を続けていく。	A
	家政科	・家政科の縦の繋がりが深まるような家政科の行事のを, 生徒主体で工夫させて考えさせ, 実践する。	・「家政科の行事を通じて家政科の縦の繋がりが深まった」生徒アンケート80%以上。	・10月中旬に, 昼食時間を利用し1~3年次生の家政科生徒が, 手作りのお弁当持参で一緒にランチタイムを過ごし, 家庭科の縦の繋がりを深めたいと計画中である。	B	・生徒主体で, 今年初めて家政科全学年の合同ランチ会が出来た。 「家政科の行事を通じて家政科の縦の繋がりが深まった」生徒アンケート 1年 92%, 2年 89%, 3年 94%	A
	寄宿舍	・各寮内において, 寮長, 副寮長を中心とした「自主」「自律」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 ・寮長, 副寮長と舎監長との情報交換を月1回行えるような体制を確立する。	・反省会並びに情報交換会が計画通り実施できた。	・毎週木曜日の反省会は実施できている。 ・寮長との情報交換は必要に応じて行っているが, 副寮長も含めた情報交換会は実施できていない。	B	・毎週木曜日の反省会は年間を通じて実施できた。 ・寮長, 副寮長との情報交換会は10月に一度実施した。2月に二回目を実施する予定である。	B

A

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価
④教職員間の情報共有を図り、課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内の整備（ホワイトボードの活用、ロッカーの整理など）をすすめる。 学校管理システムによる成績処理・学籍入力マニュアルをよりわかりやすくなるよう情報推進室と連携し改善する。 課会議の形態を各係から事前に議題提案して行うものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードが有効活用される。 改善したマニュアルができ、調査書とのデータ共有でも利便性が高まる。 課員それぞれが問題意識をもち、意見提示型の会議ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画を年内めどで行う。（少なくとも時間割変更ボードは） マニュアルは修正すべき点があれば情報推進室と連絡をとりながら進めている。年度末の入力には間に合わせる。調査書との共有性も図っている。 提案型の会へ少しずつ進んでいる。更に活発に問題提示ができることを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 活用変更案はあるので来年度当初には間に合うように整備したい。 情報推進室と連絡をとりながらマニュアルの改訂ができた。操作手順がわかりやすく、かつ入力内容が調査書へ反映しやすくなるようなものとなった。 各係のいずれかからほぼ毎回提案があった。更に活発化できる余地はあると考える。 	B
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、課会を開き共通理解を図る。 各種様式の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 80%以上開催でA。 	<ul style="list-style-type: none"> ここまでは100%開催できている。 様式については進行中。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課会開催100% 様式の整理については完遂せず。次年度に持ち越し。 	B
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> 各年次、進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 『進路のてびき』の資料を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路通信を各年次10回発行できる。 校内実力考査の成績と進学先の関連資料をつくり、掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年は普6号、家3号。2年は普3号、家2号。進路課通信は普家ともに7号。 過去3年間のデータをまとめ、進路の手引きに掲載した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1年は普14号、家4号。2年は普3号、家2号。進路課通信は普11号、家7号。 認知が不十分で、十分には活用はできていない。次年度は、活用法を周知したい。 	B
	総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> 3週間サイクルで細かい行事計画をたてて紙面配付し、仕事の進捗状況を相互に把握して協力して業務にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り実践できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙面配付が少し遅れることがあったが、ほぼ予定通りできている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 11月まではほぼ予定通り実施できたが、12月以降は大きな企画がなかったため実施していない。 	B
	1年次団	<ul style="list-style-type: none"> 面接カードの利用、課題提出状況をサーバー上で管理することにより、クラス担任と教科担当者の生徒情報の共有に努め、協働体制作りに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 年次会での生徒情報の交換が円滑に行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報の共有はかなり出来ている。課題提出の指導は年次団で協働体制作りが進められている行えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題提出状況のサーバ上での管理は、指導に生かされていた。12月末にミニ検討会を実施し、次年度に向けての協働体制作りが進められた。 	A
	2年次団	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の日常の様子を把握し、年次団で情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の記録を週に1回は確認し、コメントする。コメントに多くの教員が関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員の提出が達成できていない点は、今後の課題であるが、週1回の確認とコメント記入は学年所属の教員を含め多くの教員で関わる事が出来ている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全員の提出までは至っていないが、定期的に提出させ、生徒たちの家庭での生活状況を把握する上で十分活用できた。 	B
	3年次団	<ul style="list-style-type: none"> 進路課と連携し、外部から得た情報を年次団教員が共有できる体制を確立し、生徒の進路実現に組織的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路関係の来客や入試説明会で得た情報を、朝礼や担任会を通じて共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客対応で得られた情報も朝礼などで共有できている。 学力教科の情報共有は不十分 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現に向けた年次内での情報共有は、朝礼や日常の会話の中で図ることができたが、一層の深化の工夫も必要。 	B
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して定期的に教科会議を行い、生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究など情報交換・協働体制を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科会議を年間10回以上できた。 授業の進度や指導方法など教科内の共通認識のもと、指導できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在3回実施。時間がとれず毎週はできていない。回覧などで、主任からの情報発信は絶えず行い、情報共有を行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 6回実施（'16 2/2 現在）。教科内で授業での注意点、受験指導等について意見交換を行うことができた。 	B
	家政科	<ul style="list-style-type: none"> 「家政科通信」の計画的な発行 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に発行できた。年6回発行。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに現在3号発行。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在4号発行。 	B
事務室	<ul style="list-style-type: none"> 事務室内朝礼の充実を図るとともに職員朝礼で連絡・情報提供を行う。 行事予定表の内容を充実させることにより、情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡漏れがない。 行事予定表の内容を充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務室内の情報共有はできている。職員朝礼での連絡を精選して漏れなくしたい。 事務室の行事予定表に業務処理期限欄を設け、チェック体制ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員朝礼では、工事に関する連絡や情報提供を漏れなく行うよう努めた。 共有の行事予定表に提出物等の提出期限などを入力するようにし、情報共有を行った。 	B	

B